

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ムシガレイ

学名 *Eopsetta grigorjewi*

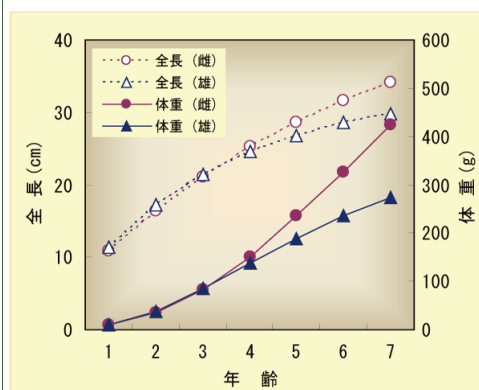
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 7歳
成熟開始年齢: 2歳(40%)、3歳(100%)
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
食性: 全長約12cmまでは小型甲殻類、12cm以上ではエビ・カニ類やイカ類、全長約18cmから魚類
捕食者: 不明

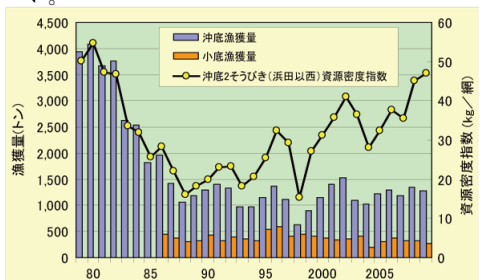


漁業の特徴

日本海南西部におけるムシガレイは、底びき網、刺し網、延縄等で漁獲される。漁獲量の大半は2そうびき沖合底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)によるものである。我が国の2そうびき沖底のムシガレイ漁場は、対馬南西域から隠岐周辺に及ぶ。

漁獲の動向

漁獲量は1980年代前半に減少した後、低水準で推移している。近年の沖底の漁獲量は8百～13百トン、小底の漁獲量は3百トン前後で推移しており、本評価対象全体では、2009年は16百トンの漁獲があった。韓国全域では、2006年以降、例年2万トン以上のカレイ類が漁獲され、2009年も2.0万トンであったが、このうちの本種の割合は明らかではない。

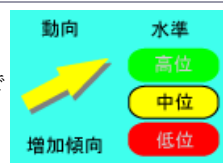


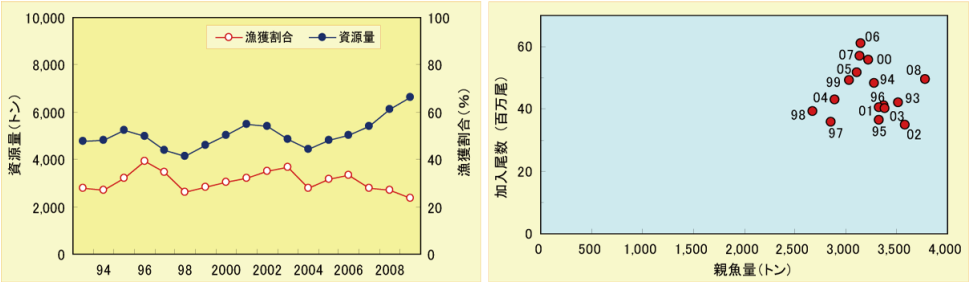
資源評価法

1966年以降の漁獲量、漁獲努力量等の情報を収集した。2そうびき沖底の漁獲成績報告書から資源密度指数・資源量指数等を算出した。1993年以降について漁獲物の生物測定結果に基づき年齢別漁獲尾数を求め、コホート解析により資源量やF値などを推定した。

資源状態

漁獲量は、1980年代に減少して以降、低水準で推移してきた。しかし、資源密度指数や資源量指数は、近年、増加傾向にあり、2008、2009年の値は中水準である。また、2009年の資源量ならびに親魚量は、1993年以降の最高値である。加入量(1歳魚資源尾数)は、2003年以降増加し、2008、2009年は減少したが、依然として1993年以降の中水準である。これらの指標から、2009年の資源水準は中位、動向は増加と判断する。



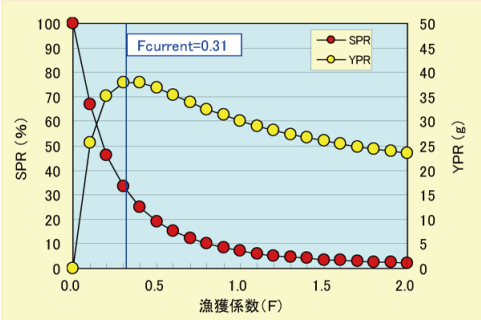


管理方策

近年の漁獲量は低水準であるが、資源量指数および資源密度指数は、近年、増加傾向にあり、2009年は中水準である。2009年の資源量と親魚量は、1993年以降の最高値である。2009年の加入量は1993年以降では中水準である。漁獲圧は年々減少傾向にある。本系群は、現状の漁獲圧および最近年の再生産成功率の下であれば、資源量・漁獲量ともに増加すると考えられる。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	20百トン	Fcurrent	0.31	23%
ABCtarget	17百トン	0.8Fcurrent	0.25	19%

- 漁獲割合はABC÷資源量
- Fcurrentは2009年のF
- F値は各年齢の単純平均



資源評価のまとめ

- 資源量および親魚量は近年増加している
- 漁獲圧は近年減少傾向が見られる
- 加入量は1993年以降では中位水準である

管理方策のまとめ

- 現状の漁獲圧および最近年の再生産成功率の下であれば、資源量・漁獲量ともに増加が期待できる

執筆者: 藤原邦浩・木下貴裕

資源評価は毎年更新されます。